

ねむろ未来塾通信

発行者：根室市総合政策部

根室の未来を創る
vol. **2**
令和3年12月発行
ねむろ未来塾通信

第3回「根室の未来を創るまちづくりプロジェクト -2045年の将来都市像-」を中学生を対象に実施しました！



11月1日（月）、光洋中学校3年生、約120人の生徒を対象に「根室の未来を創るまちづくりプロジェクト-2045年の将来像-」と題して、根室市まちづくり出前講座を実施しました。生徒の皆さんには「目指したい24年後の根室市」として、いろいろな意見やアイデアをいただきましたので、一部をご紹介します。

現状と課題

- ・若者の仕事場がない
- ・遠出ししないと買い物ができない
- ・インターネット関連の職業が増え人口が増加しない
- ・ショッピングモールやスケボーなど中高校生の遊ぶところがない
- ・町内会の加入者が減少し災害時の助け合いができない

将来の目標

- ・職種が多くあり、若者が地元で就職できるまち
- ・農山漁村が豊かなまち
- ・大きなショッピングモールがあり地域経済が活性化しているまち
- ・地震災害などに強いまち
- ・自動車や自転車が走りやすいまち
- ・ポイ捨てゼロのまち ・外国人が住みやすいまち



実現に向けたアイデア

にぎわいづくり

- ・空き店舗をリフォームして、新しい店や施設をつくる
- ・駅周辺にショッピングモールを建て、地元で買い物ができるようにする
- ・スケボーパークなど若者向けの施設をつくる
- ・大学や専門学校（保育関連など）など、高校卒業後の学びの場があると良い

観光PRなど

- ・若者が興味を持ちやすいアプリで食・自然など情報発信する
- ・〇〇体験など、根室でしかできない観光事業を計画する
- ・外国からの旅行者が過ごしやすいう整備する

防災関連

- ・海拔の低い土地から高い土地へ繋がる道路を整備する

環境対策

- ・ゴミを拾った分だけ商品券やクーポン券を配布する



根室市の未来を創るまちづくりプロジェクト 令和3年度も「ねむろ未来塾」でまちづくりの検討を進めています



今号でご紹介するねむろ未来塾のワークショップはこちら！



第3回 ねむろ未来塾 中学生 ワークショップ



【開催日時】
2021年11月1日（月）
13：20～14：10

【参加人数】
光洋中学校3年生120名



第4回 ねむろ未来塾 プロジェクトチーム ワークショップ



【開催日時】
2021年11月8日（月）
19：00～21：00

【参加人数】
市民14名
市役所若手職員12名

根室市からのお知らせ



SDGsとはすべての人々にとってより良い未来を築くために設定された、持続可能な17の目標のことです。根室市もこれからの未来のために、貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、グローバルな諸課題の解決を目指していきます。「根室市グランドデザイン」の策定においても、このSDGsを踏まえながら考えていきます。

SDGsに関する取組については、右記の二次元コードからご覧ください。



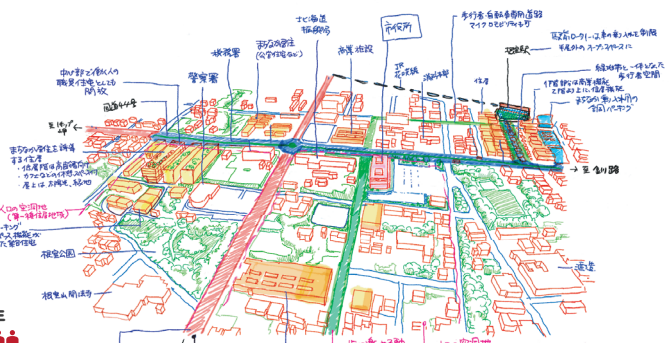
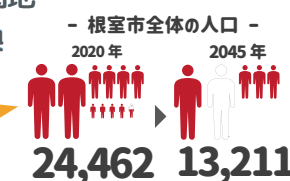
第3回・第4回は、2045年の市街地における公共施設のイメージについて意見交換しました！



令和元年度からスタートした根室市グランドデザインは令和4年度末の策定を目指し、今年度も市民や市役所職員など様々な立場の方達がチームになって、根室市の将来像について検討していきます。

第3回・第4回のワークショップでは、市内でも特に公共施設が集積する「市街地」にスポットを当て、人口減少する中での2045年の市街地におけるイメージについて意見交換をしました。

人口減少が進む視点から検討しています



第3回・第4回ワークショップで提示した「公共施設の配置イメージ図」の案



ワークショップでは、将来の人口分布の予測を考慮して、市街地の公共施設の配置イメージがどうあるべきかを考えました。

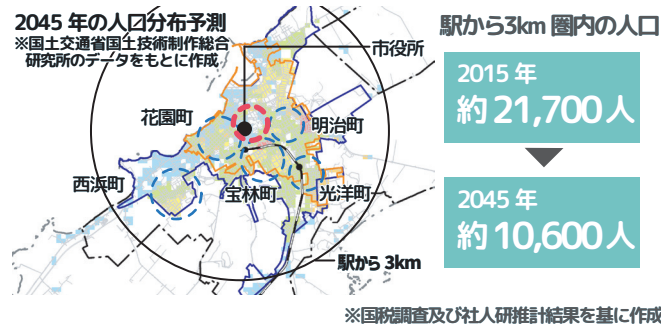
2045年の根室市についての情報提供（一部抜粋）

公共施設の約半数が市街地に集積！

- ・約20年後は根室市全体の人口が約半分になると予測されている。
- ・根室市内の公共施設のうち半数以上が市街地に集中。
- ・そのため、公共施設の集約や効率的な配置が必要となる。



人口減少により中心市街地でも人口が減少し空洞化



人口減少していく中で市街地の範囲を縮小



※上記は、根室市人口ビジョンや根室市公共施設等、総合管理計画、国が公開しているデータを参考に、事務局で将来の市街地について検討したもので、現時点で考えられるイメージとなります。

第4回プロジェクトチームワークショップで得られた意見

2045年の公共施設の配置イメージと豊かな暮らし

全体で
共通する意見

①将来の根室市のまちづくりを踏まえて公共機能を考える

- ・医療や福祉面のオンライン化の導入、マイクロモビリティを充実させて移動を円滑にするなど「暮らしを支援するまち」を目指す。
- ・人口減少が進行する中でも、公共サービスに頼らない観光振興や再生可能エネルギー導入による売電などで「稼ぐまち」を目指していく。
- ・子どもたちの声が聞こえるまちにすることが大切である。高齢者と子どもたちの交流があるなど、根室市全体として「人と人とのコミュニケーションがあるまち」を目指す。
- ・多様な住まい方・働き方・学び方ができる「選ばれるまち」を目指す。

②市街地の範囲をさらにコンパクトにする

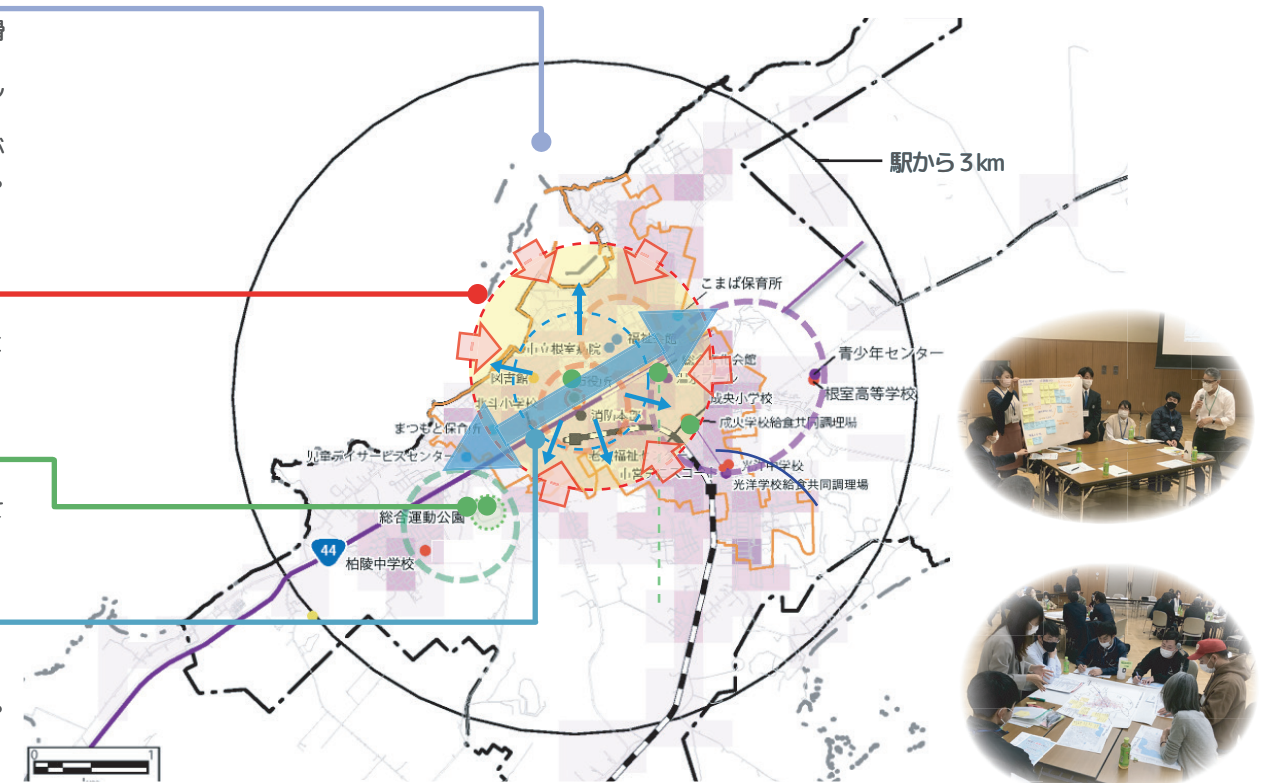
- ・車を使えない市民でも暮らしやすい範囲に縮小した方が良い。
- ・根室市は地形の起伏の差が大きく、小学生児童が1kmの距離を徒歩移動することは大変なので、市街地の範囲は今回提示案から縮小した方が良いのではないかと。

③公共施設の配置は「機能の融合・複合化」も踏まえて考える

- ・将来の人口減少を踏まえると、公共施設の統合や存廃は必要である。
- ・利便性や効率性、暮らしの楽しさを考えると、エリアを分けずに機能を複合化させて配置する方が良い。

④市街地内を連絡するモビリティを確保する

- ・人口減少時代の歩いて暮らせるまちづくりには、移動を支える公共交通が必要。
- ・短距離移動を効率化させるため、マイクロモビリティを充実させる。
- ・将来的には、自動運転バスなどMaas（マース：Mobility as a Service）を導入したい。



公共施設の配置イメージ（4つのエリアに分ける場合）

4つのエリア
に関する意見

2045年の市街地、公共施設の配置の考え方とイメージ

- コンパクト化した市街地区域の中で、人口空洞化部分に居住を集積（職住近接）
- そのなかで、市民生活に資する機能を人口規模を踏まえて統廃合
- 公共施設はコンパクト化した市街地で「歩いて暮らしやすい」位置で移転、再配置

公共機能エリア

（市役所、根室駅、消防本部、根室振興局、根室税務署、根室警察署）

- ・公共施設は複合化するべきである。
- ・エリアをつなぐモビリティが必要である。
- ・空き施設を活用して、コミュニティの場や交流の場を設ける。
- ・根室駅周辺に施設や交流の機能を集約させる。
- ・公共機能エリアは市街地の中でも中心部に位置するので、近距離移動の利便性を高めるためマイクロモビリティを充実させる。

スポーツ機能エリア

（市営テニスコート、屋内相撲場、武徳殿、市営ゲートボール場、温水プール、青少年センター）

- ・スポーツ施設は、学校帰りに利用できる方が使いやすいので文化機能エリアに近いほうが便利だと思う。
- ・まちの入口に位置する旧柏陵中学校周辺にすべての機能を集約することが考えられるのではないかと。
- ・郊外に作って外遊びや自然遊びを学生に体験してもらう必要があると思う。

福祉機能エリア

（市立根室病院、福祉会館、保育所、児童デイサービスセンター、福祉交流館、老人福祉センター など）

- ・福祉センターのような活動場所があると、高齢者の活発な活動につながるのではないかと。
- ・保育所は職場の近くに必要のため、点在していてもよいのではないかと。
- ・ある程度人口がある地域に一つは会館などの拠点があったほうが良いのではないかと。

文化機能エリア

（花咲小学校、北斗小学校、成央小学校、柏陵中学校、光洋中学校、根室高等学校、学校給食共同調理場、図書館、総合文化会館）

- ・文化とスポーツを融合する複合施設があってもいいのではないかと。
- ・離れて住む人の交通手段（スクールバスが無い）を考える必要がある。
- ・人口減少を考えると市街地に小中学校一カ所ですら十分ではないかと。
- ・図書館、総合文化会館、資料館の循環で文化に触れる機会があるといい。
- ・市民活動の発表の場が必要である。